

日・イラク協力関係の強化に関する共同プレスリリース

2017年1月10日

1 1月10日、藪浦健太郎日本国外務副大臣はイラク共和国バグダッドを訪問し、イラク側と二国間関係及び両国の共通関心事項に関し意見交換を行った。

2 イラク側は、テロとの闘いが進展する重要な時期における日本側のイラク訪問を、イラクと日本の強固な協力関係を象徴するものとして歓迎した。日本側は、テロとの闘い、解放地域の安定化、人道状況の改善等につきイラクとの強い連帯を再確認した。イラク側は、イラクはテロとの戦いにおいて責任あるパートナーであることを強調した。

3 この会談において、日本側及びイラク側（以下「双方」）は、これまでの二国間関係の進展を評価しつつ、日本・イラク両国間に外交関係が樹立されてから80周年を迎える2019年11月までに、両国が、一層の交流強化を図り、一定の成果を蓄積すべきとの認識で一致した。

4 双方は、日・イラク二国間関係が長期にわたり着実に強化されてきたことを評価した。また、両国関係には更なる関係強化の大きな潜在性があるとの認識で一致し、両国外交当局として、今後一層の努力を続けていくとの双方の意思を再確認した。

5 イラク側は、在エルビル日本国領事事務所が本年1月1日に正式に開設されたことを歓迎した。双方は、本領事事務所の開設により、両国関係が更に広範に強化されていくことへの期待を共有した。

6 日本側は、対テロ作戦に伴う深刻な人道危機の発生に懸念を表明するとともに、日本の資金を活用した国際機関による人道支援及び解放地域の安定化支援等に今後、国会で補正予算が成立することを前提に、約1億ドルを拠出する方針を伝達した。また、日本側は、イラク国内の電力供給の一層の安定化に資する「電力セクター復興計画（フェーズ3）（約272億円）」への円借款供与に係る交換公文署名が行われたことをイラク側に紹介するとともに、バスラ県にある火力発電所改修事業に約215億円の円借款を供与する方針を表明した。イラク側は、日本の対イラク支援が解放地域安定化を含む多岐な分野にわたり進展していることを高く評価し、日本政府及び日本国民への深い謝意を表明した。またイラク側は、イラクの基礎インフラの復旧や公共サービスの向上に向けた国際社会による一層の努力に期待を表明した。

7 双方は、日本とイラクとの間の技術協力の環境整備の一環として、技術協力協定の

締結に向けた両国間の協議を加速させることで一致した。

8 双方は、本年のバグダッド国際見本市における日本企業の参加にみられるとおり、イラクでの日本企業の活動が、困難な治安情勢下でありながらも継続されていることを評価し、イラクにおける一層の投資環境改善など、これを加速するための取組を進めていくことの重要性について認識を共有した。イラク側は、より多くの日本企業がイラクに進出するよう要請した。

9 この関連で、双方は、日・イラク間において協議が続けられてきた日本の国際協力銀行（J B I C）による融資の第一号案件となる変電所建設事業が近く実施に移される予定であることを歓迎した。

10 双方は、日・イラク間の外交関係樹立80周年に向けた交流強化の実現を目指して、初等・中等教育分野、学術交流、大学間交流、スポーツ分野を中心とする交流拡充のための具体策を発掘・実施するための協議を両国関係当局間で開始することで一致した。

11 双方は、学術交流に関して、イラク及び日本で交互に毎年1回開催される学術交流シンポジウムを安全に配慮した形で行えるよう、両国外務省間で協力していくことで一致した。

12 双方は、両国民の交流の活性化が、将来における二国間関係強化にとり重要であるとの認識を共有し、人的交流のための基盤強化に向けた両国間の協力策につき引き続き協議を行うことで一致した。日本側は、イラクへの入国査証取得時の非H I V検査証明書廃止を含むイラクにおける査証発給手続の迅速化と簡素化、また入国管理手続の円滑化の重要性を強調した。

13 また、この機会に、日本側は、外交関係樹立80周年を迎える2019年11月までに、バグダッドの日本国大使館における査証発給業務を正常化すべく具体的な検討を開始する旨を伝達し、イラク政府による協力を求めた。

(了)